

江田島市議会議長 酒永光志 様

第2班 班長 岡 野 数 正

議会報告会実施結果報告書

開催日時	令和 7 年 8 月 7 日（木） 13時 30 分 ～15 時 30分			
開催場所	大幸交流プラザ			
出席議員	班 長	岡 野 数 正		
	司 会	岡野数正	記録者	宮下成美
	説明員	宮下成美		事務局 2 人
参加団体	江田島野菜出荷組合			
参加人数	6 人			
議会報告の概要	・ 議会だより 82 号（令和 7 年 5 月 1 日）の令和 7 年度予算の報告 ・ 共通テーマ 「人口減少問題」について意見交換 ・ 個別テーマ 江田島市の農業について意見交換 ・ 質疑応答（意見・要望等）			
主な意見・要望	～ 人口減少問題について ～ 【意 見】 ・ 江田島市内では働くところが少ないので若者が出ていく。 ・ 広島市内で就職する場合、江田島から通勤するのであれば採用が難しいと言われ、広島市内に住むこととした。 ・ 大須区の場合、船が着かなくなったことで急激に人口が減少した。 ・ 切串小学校区ではこどもの数が減少傾向にあり、今後さらに進むと小学校がなくなるという不安がある。 ・ 自分たちのこどもには、広い世界を見てほしいので江田島に残れとは言えない。 ・ 人口減少は仕方がないものと捉え、江田島市の場合だとそれだけ家や土地、さらに農地も空くのだからチャンスとして捉えるべきではないか。 【要 望】 ・ 市が空き家をリノベーションして、若い人を呼び込む施策をしてほしい。 ・ 人口が少なくなった集落で暮らしていくためには、通学や通院さらには買物ができるようなバスは残してほしい。			

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 出生率を上げるため、子育て環境を充実させてほしい。 <p>～ 農業問題について ～</p> <p>【意 見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ せっかく就農しても、就農者が途中でやめてしまうことが問題である。 ・ 新規就農者を募集する場合、農業の大変さを理解してもらうことが重要である。 ・ 研修ハウスが2箇所あるが、現在は1箇所のみ利用となっている。有効活用するためにも研修生を増やすべきではないか。 ・ 様々な農業の課題について、自分達から要望しても市役所は相手にしてくれない。 ・ 市の農業担当者が異動すると、それまでのことが引き継がれていないことが多く見受けられる。 ・ オリーブやレモンなど個人や企業が行うものには手厚い支援をするが我々のようなキュウリ産地については支援が少ないと感じる。 <p>【要 望】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 農業は専門性が高いので、市担当者及びその上司も異動の際には引き継ぎを確実に行之、地域農業の持続を支援してほしい。 ・ 新規就農者を増やす取組を積極的に行いつつ、農地の流動化を図ってほしい。 ・ 新規就農制度を充実したものにするため、これまでの経験をもとにマニュアル作りなどを進め、市担当者が異動したとしても制度運用に齟齬が生じないように取り組んでほしい。 ・ 江田島町北部のキュウリのハウス栽培は「産地」としてとらえ、今後、キュウリの産地育成をどのように行っていくか市としてしっかりとしたビジョンを持ってほしい。
<p>まとめ</p>	<p>今回は、江田島野菜出荷組合の若手農業者との懇談で、人口減少問題や農業問題について貴重な意見を頂きました。</p> <p>まず人口減少問題では、現状特に大きな問題とは捉えてはいないものの、将来こどもが少なくなった時の通学や高齢化したときの通院などに不安が残るとのことでした。一方、人口減少をチャンスと捉え空き家や農地の有効活用で都市部から若い人を誘引してはどうかという意見も見られ、具体的な取組に進化できれば、人口減少抑制に繋がる要因になると考えます。</p> <p>次に農業問題ですが、農業従事者と市担当部局との協力体制及び信頼関係に不安が残るものでした。市担当者と地域農業施策の話し合いをしながら続けて行く中で、口約束が多く約束事が履行されないことが多々あるとの声を聞きました。とりわけ江田島町北部はキュウリの一大産地であることから、持続可能な産地としての市の取組や将来計画を農業従事者と協議しながら信頼関係を構築し、共に歩んでいくことが必要であると感じました。</p> <p>今後、議会としても、一般質問や農業関係の議案審議を通じて、江田島市の農業を持続可能なものとするため、鋭意取り組んでまいります。</p>